



すてい~る

目次

●特集 平成28年「新年賀詞交歓会」

●平成28年「新年賀詞交歓会」開催	1
●各支部でも新年賀詞交歓会	5
●新・理事訪問 北 信一 大洋商事(株)代表取締役社長	7
●新・理事訪問 久木田至 櫻井鋼鐵(株)代表取締役社長	8
●いま世界へ! 各社が取り組む海外展開事例—辰巳屋興業株式会社	9
●理事会・委員会報告	10
●支援チャイルドからお礼の手紙が届きました!	10
●事務局だより・編集後記	裏表紙

平成28年 一般社団法人全日本特殊鋼流通協会 新年賀詞交歓会



一般社団法人全日本特殊鋼流通協会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号(鉄鋼会館)

TEL.03-3669-2633・2777 FAX.03-3669-0395

ホームページ <http://www.zentokkyo.or.jp>

E-mail info@zentokkyo.or.jp

(一社)全日本特殊鋼流通協会 平成28年「新年賀詞交歓会」開催



法人化周年記念の年を迎え 参加者約500名がさらなる協調と連携を誓う

全特協では平成28年1月19日(火)、東京・市ヶ谷の「グランドヒル市ヶ谷」で「平成28年新年賀詞交歓会」を開催した。来賓、正会員、賛助会員等約500名が参集した賀詞交歓会の冒頭では、佐久間貞介会長(佐久間特殊鋼・代表取締役執行役員社長)が、シェアリングエコノミーやIoTなど新しいサービス領域に触れながら「これまでとは違った価値やサービスを探ることが従来以上に重要となっておりメーカーと流通が知恵を出し合って変革に取り組むことが必要」と提起し、全特協法人化20周年事業のアナウンスも行った。

ご来賓を代表して登壇された山下隆也・経済産業省製造産業局鉄鋼課長は、法人税引き下げや中国の過剰供給問題解決に向けた取り組みや新エネルギー政策など、特殊鋼流通業に影響の大きな諸施策のほか、省エネや復興支援に関連する各種補助金も紹介しながら政府の産業振興策をアピールされた。富

永真市・特殊鋼倶楽部副会長(山陽特殊製鋼・常務取締役東京支社長)のご発声で乾杯した後は、先行き不透明な一年だからこそ業界の協調と連携をより確かなものにしようという意気込みの活気あふれる懇談が行われ、中締めあいさつに立った碓井達郎東京支部長(碓井鋼材・代表取締

役)の威勢のいい三本締めで盛会のうちに散会となった。



全特協会長 年頭のあいさつ

(一社)全日本特殊鋼流通協会 会長 佐久間貞介

急激に変化する外部環境への対応強化と 20周年を期にさらなる協会活動の活性化を



昨年の日本経済は、国内総生産の成長率が低水準に推移するなど高揚感に欠ける年でした。それに対し、昨年秋に発表された安倍総理の「新3本の矢」は、わが国が強い経済となるよう各種施策が打ち出されています。さらに、今年は伊勢志摩サミットや参議院選挙と大きな政治イベントが控えており、日本経済もそれにつれて上向きに転じるよう期待しているところです。一方、昨年の世界の動向は中国の景気減速が鮮明になり、わが国にも大きな影響を及ぼしました。さらに、原油をはじめとする資源価格全体が低水準に推移し、当業界に対しては硬軟両面の影響を及ぼしています。このような経済情勢の中、これからの特殊鋼業界がさらなる発展を期するために何をすべきか、2つの点についてお話し申し上げます。

まず1点目は、特殊鋼業界を取り巻く外部環境の急速な変化に、いかに対応していくかです。「シェアリングエコノミー」と呼ばれる新たな経済活動が拡大してきています。自動車の相乗りサービスを手がけるUber(ウーバー)はタクシー業界に、自宅の時間貸し・民泊のサービスを担うAirbnb(エアビーアンドビー)はホテル業界に革命を起こし、設立からわずか6～7

年で世界規模の企業へ成長しています。「シェアリング後進国」といわれている日本でも、2020年の東京五輪に向けて大きく変化をしていくと思われます。また、金融業界においてもITを組み合わせた「フィンテック」と呼ばれる新しいサービスが生まれ、銀行に頼ることなく広く一般市民から資金調達が可能になるなど、これまでは考えられなかったビジネスモデルが現れています。

昨年は、IoT「インターネット・オブ・シングス」元年とでも呼ぶべき年でした。この言葉にあるように「物」と「情報」が組み合わせられ、家電・自動車・工作機械などの分野で新たな機能を有した商品が生まれています。自動車メーカー様などの工場でもIoTが活用されはじめており、特殊鋼業界においても、どのように取り入れていくかを真剣に考えなければいけません。

このような変化の中で、お客様のニーズを先取りし、新しい価値を創造してゆくには従来の枠組みや固定観念を取り払い、新たな価値やサービスのあり方を探ることが、従来にも増して重要となってきています。そのためには、特殊鋼メーカー様と流通業者が知恵を出し合い、改革・変革をしてゆくことが必要ではないかと考えています。

2点目は、今年は全特協にとって創立20周年の記念すべき年であることで

す。経済産業省様より社団法人の認可をいただいてから20年が経ちました。6月には祝賀会を開催するとともに記念誌発行の準備もはじめています。

20年という間には会員の方々、メーカー様やユーザー様など関係する皆様のご協力により、協会の各種事業を積極的に展開することができました。その結果、業界全体のレベルアップにつながったものと信じています。20周年を期に、協会自体の活動をさらに活性化していきたいと考えています。

昨年、当協会は中国支部を新たに設け、現在8支部体制で活動を行っています。個々の支部が独自の活動を活発に行うとともに、今年から全国を3つの地域に分けた「ブロック」を編成し、それぞれのブロック内で支部が相互に協力して活動できるようにいたします。

さらに今年は、全国組織として強固な団体とするため全支部が参加できるイベント開催も検討しています。会員はもとより業界にとって魅力ある活動をすることで、会員相互の一体感を増すことができると考えています。

最後になりましたが20年という節目で会員、賛助会員の皆様より、多大なるご寄付を頂戴いたしました。皆様方のご理解とご協力で改めまして厚く御礼を申し上げます。これからの業界発展のために有意義に活用してまいりたいと存じます。



(一社)全日本特殊鋼流通協会 新年賀詞交歓会

平成28年1月19日(火) グランドヒル市ヶ谷

ご来賓祝辞

経済産業省製造産業局 鉄鋼課長 山下隆也 様

法人税改正による投資環境改善や 中国過剰供給問題への取り組みで皆様とともに汗かく一年に



各種報道でご案内のように、政府は法人税の実効税率を下げることで、来年度20%台ということで、3年で7%を超える税率の引き下げを実現します。徐々に皆様方の活動がしやすくなるような環境が整ってきていると認識しています。ぜひ皆様方、設備、技術、人材への投資を果敢にしていただければと思います。

鉄鋼業全体が直面する最大の問題と

例えば、中国の過剰能力に端を発する、さまざまな市況の下落や通商摩擦の勃発です。この問題については昨年、また来月も事務レベルや閣僚レベル、それから二国間、多国間とさまざまな場を使って中国政府に働きかけを行ってきました。昨年末になりますが中国政府もようやく動きの変化がみられると認識しています。施策については徐々に変化の兆しが見られる中国ですが、それが実行に移され、かつ効果が上げられるのかはまったく未知数ですので、今年前半に行われるOECDや日中二国間対話などのフォーラムを活用しながら、引き続き中国政府に改善を働きかけることにしています。

エネルギー問題については、3.11以降、電力料金が高騰し、皆様方の事業活動に多大なるご迷惑ご心配をかけたことをお詫び申し上げます。昨年7月には政府としてエネルギーミックスを策定しました。これによって少なくとも

今よりは電力コストを引き下げて、そのためにあらゆる政策を総動員するという内容の閣議決定を行っています。徹底した省エネの推進、再エネの最大限の導入をしつつも国民負担を抑制していくといったことに向けてさまざまな取り組みを行っているところです。

この一年間、着実にやるべきことをやり、地味であれ一つひとつこなしていけば必ず次の年につながると確信しています。今年は、皆様方と一緒に汗をかいてまいる所存ですので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



乾杯ご発声

(一社)特殊鋼倶楽部 副会長 富永真市 様

メーカーと流通の連携強化で 新しい技術・サービスの提供から特殊鋼需要の創出を



昨年の日本の特殊鋼業界は円安や資源安などで、自動車向けの需要こそまずまずのレベルでしたが、中国や資源国の下降により、建産機が不振になるなど、総じて期待はずれの一年だったと思います。今年の米国経済は引き続

き拡大基調で、国内も雇用環境や所得の改善により、日本経済は緩やかな回復に進むというのがメインストーリーです。ただし、年初来の想定外の株安や円高、それから地政学上の問題等で、特殊鋼を取り巻く環境や特殊鋼需要の予想は不透明といわざるを得ないと考えています。

しかしながら、目線を少し高くもち長期的に見ますと、新興国を中心としたグローバルな自動車事業は必ず増加します。それからリニア中央新幹線等、今後の特殊鋼需要につながっていく種も数多く見受けられます。そうした中で、特殊鋼業界としてはメーカーと流通が一段と協調を強くして、お互いに知恵を出し合いながら、新しい技術や新しいサービスをお客様に提供し続け

ながら、我々の手で新しい特殊鋼需要を創出するということが大変に重要になってくると思います。

特殊鋼倶楽部としては、その重要施策の一つにメーカー会員と流通業者会員の連携強化をあげています。今年も全特協の会員の皆様とは、まさに手と手を取って特殊鋼業界の発展に寄与してまいりたいと思っています。

先ほどの佐久間会長のお話しにありましたように、今年で全日本特殊鋼流通協会は創立20年を迎えます。1938年の全国鋼商工組合連盟以来、連綿と続く流通の皆様の真摯な努力の賜が今日を築いたと思っています。これから50年あるいは100年に向けて、さらに年輪を厚くして発展することを期待してやみません。

中締めあいさつ

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部長 碓井達郎

政府施策にも期待しながら 今年一年を元気に健康第一で過ごそう



冒頭で佐久間会長が申し上げたとおり、今年は厳しい環境でスタートする様相を呈していますが、経済産業省の山下課長からもお話しがあつたとおり、われわれの力添えになるようないろいろな補助金があるということです。そ

うしたことに勇気づけられながら、今年は何によりも元気に健康第一で一年を過ごして、また来年皆様と笑顔で

あいさつを交わせるように祈念して三本で威勢よく元気に締めてまいりたいとおもいます。



各支部でも新年賀詞交換会

東京支部

開催日時：平成28年1月19日(火)
開催場所：グランドヒル市ヶ谷
出席者：約500名
〔(一社)全日本特殊鋼流通協会との合同開催〕

大阪支部

開催日時：平成28年1月5日(火)
開催場所：リーガロイヤルホテル
出席者：約750名
〔大阪ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部大阪支部との三団体共催〕

恒例の参加者全員による国歌「君が代」斉唱の後、3団体を代表し、福原實晴支部長(南海鋼材・代表取締役)が「今年も昨年同様に円安、原油安が安定的に続けば、今年のマイナスの流れをプラスに変える材料はいくつもある。一つは経済大国アメリカの復活、二つ目は関税自由化による日本製品の優位性、三つ目は国内の自動車販売台数の回復、四つ目は外国人観光客の増加である。これら一つひとつに即効性は期待できないが、これらが相まって特殊鋼の需要が伸びることは期待できる。少なくとも特殊鋼3団体にとって、昨年よりも希望の持てる年であることを願っている」とあいさつ。

続いて来賓を代表して志賀英晃・近畿経済産業局産業部次長があいさつ、松井一郎・大阪府知事の祝辞の代読と進み、今井隆・大阪ステンレス流通協会理事長が乾杯の発声をし、懇親会へと進んだ。懇親会は約750人の参加者で多いに賑わいをみせる中、例年どおり流れ解散でお開きとなった。



▲恒例の「君が代」斉唱



▲あいさつする福原支部長



名古屋支部

開催日時：平成28年1月7日(木)
開催場所：名古屋観光ホテル
出席者：約440名
〔名古屋ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部名古屋支部との三団体共催〕

冒頭、利光一浩・特殊鋼倶楽部名古屋支部長があいさつに立ち「今年は丙申の年である丙とは明らかになるという意味であり、申は果実が成熟していく状態であるようだ。形がはっきり固まっていくという成長段階であり、我々が培ってきた努力が実を結ぶ年であると考えている。固まった果実が一刻も早く収穫できることを望んでいる」と述べた。続いて来賓を代表し柳原和男・経済産業省中部経済産業局産業部製造産業課長が祝辞を述べた後、樋口芳支部長(辰巳屋興業・代表取締役)が「今年は申年。とりあえず悪いことは去れ、良いことは来いということだろうと思う。実りある年であり、伸びていく年である。今年は希望を持って前進していきたい」とあいさつし、乾杯の発声。会は和やかに進み、堀場昌治・名古屋ステンレス流通協会理事長が「損する商売を止めて、来年はお互いに我慢して良かったと思える年にしたい」と述べ、一本で締めて盛会のうちに散会となった。



▲樋口支部長による乾杯の発声



▲堀場名古屋ステンレス流通協会理事長による中締め

東北支部

開催日時：平成28年1月22日(金)
開催場所：仙台国際ホテル
出席者：47名

小室清志(藤田商事・執行役員東北支店長)の司会のもと、日下俊之支部長(クサカ鋼材・代表取締役)は新年のあいさつを述べた後、「当協会は創立20周年を迎えます。東北支部は一昨年、昨年と北関東支部と工場見学会を共催し、勉強になるとともに、他支部の皆様と親交を深められて大変有意義でした。今年から導入されるブロック制はそうした可能性を更に高める取り組みだと考えます。ボウリングの全国大会の開催も検討されています。若い人を中心に支部の枠を超えて交流できるよう、東北支部でもボウリング大会を実施したいと思います」と述べた。その後、来賓を代表して伊藤秀史・大同特殊鋼工具鋼営業部東京営業室長があいさつ。乾杯の音頭は、本郷貴之(ポーラー・ウッドホルム・エアアマネージャー)が務め、和やかに会は進み、渡辺康雄(アマダマシンツール・セールスマネージャー)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする日下支部長



北 関 東 支 部

開催日時：平成28年2月7日(日)
開催場所：伊香保温泉「岸権旅館」
出席者：17名

斎藤和彦(青山特殊鋼・営業課長)の司会のもと、長谷川弘和支部長(長谷川ハガネ店・代表取締役)が「年明けから中国経済減速の影響、中東の不安定な政治、社会情勢など懸案事項が多々あり、日本経済にも影響が及んでいる。今朝は北朝鮮の弾道ミサイル発射もあり、アジアの情勢不安も緊迫化している。そうした中でも我々は日々経済活動に従事しており、地に足をつけてまい進して行かなければいけない。今日は懇親会を含めて情報交換を行い、親睦を深めて頂きたい。今年が良い年となるように元気を出して、前向きに取り組んでいきましょう」とあいさつ。福田正弘・日立金属高級金属材料カンパニー企画部主管部長が今年の市況展望を述べた後、鈴木至典副支部長(鈴木機械・代表取締役)があいさつ。その後の懇親会は終始和やかな雰囲気、宮内保副支部長(小山鋼材・代表取締役)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする長谷川支部長



静 岡 支 部

開催日時：平成28年2月16日(火)
開催場所：静岡グランドホテル中島屋
出席者：12名

浅井達也副支部長(佐久間特殊鋼・浜松支店長)の司会のもと、2月1日に傘寿を迎えたばかりの山浦康雄前支部長(サンコー・代表取締役)が「株安、円高、日銀のマイナス金利政策など大変な年明けとなっている。申年は賑やかな年と言われるが、儲からなくて賑やかになるようではいけないと思う。ここ2、3年で販売状況が一番良くないと感じている。指をくわえて見ている訳にもいかないが、この狭い地域でお客さんの取り合いをしても仕様が。それぞれが今のお得意先から仕事を出して頂けるように努力し、状況を良くしていくために頑張ろう。お互いに体に気を付けて、この1年頑張りましょう」とあいさつ。終始和やかな雰囲気のもと歓談が進み、三上忠明副支部長(ノボル鋼鉄・専務取締役静岡支店長)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする山浦前支部長



中 国 支 部

開催日時：平成28年1月25日(月)
開催場所：シュラトンホテル広島
出席者：27名

山口隆徳・全特協大阪支部事務局長の司会のもと、木村雅昭支部長(深江特殊鋼・代表取締役)は新年のあいさつを述べた後、「『入って良かった全特協、作って良かった中国支部』と思って頂けるように活動していきたい。中国支部は、全特協が全国組織として体制を整えていく上で立ち上げた新しい支部です。本体あるいはブロックで事務局機能を支援して頂き、誰もが支部長になり得る支部として継続していきたいと思えます。親睦を深め、その先で信頼を深めることが大事であり、お互いに勝ち合うような地域を作って行きましょう。そして『運営に参画することが楽しいぞ』という支部にしていきましょう」と述べた。その後、賛助会員を代表して宇野伸一・山陽特殊製鋼広島支店長が乾杯の音頭を務め、福原賞晴副会長(南海鋼材・代表取締役社長)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲活躍が期待される正副支部長



九 州 支 部

開催日時：平成28年1月6日(火)
開催場所：ホテルオークラ福岡 平安の間
出席者：205名
[九州ステンレス流通協会との共催]

冒頭、主催者を代表し内堀亀雄・九州ステンレス流通協会理事長が「今年申年は申年。申年生まれはポジティブで頭の回転の早い人が多いと言われる。それにあやかり明るく活発に、知恵を出してこの一年を乗り切りましょう」とあいさつ。またメーカーを代表し、山田良彦・JFEスチール九州支社長は「オリンピック関連の建設業界の特需、円安効果による国内回帰、住宅関連の駆け込み等多くの需要も期待できる為、昨年よりは良い環境になるであろう」と述べた。続いて来賓を代表して、生島敬二・経済産業省九州経済産業局地域経済部製造産業課長の御祝辞をいただいた後、宇野伸一・山陽特殊製鋼九州営業所長より、ダーウィンの進化論になぞらえ、「取り巻く環境が変化しても常にお客様の声に耳を傾け、製販一体となって対応する事が大切」とのあいさつと乾杯の発声で会は進行し、終始和やかな懇談のうちに散会となった。



▲宇野氏による乾杯の発声



新・理事訪問

大洋商事株式会社
代表取締役社長 北 信一



懇親からさまざまに広がる協会メリット 海外の情報・意見交換の可能性も模索

■特殊鋼で40年のキャリア

若い人には多彩な経験を積ませたい

昨年6月、前任の金子篤司氏の退任に伴い大洋商事からの理事交代という形で新理事に就任した北氏は、1952年4月、福島県相馬市出身の63歳。相馬高校、東洋大学法学部を経て、学生時代からアルバイトをしていた縁で1976年3月に大洋商事に入社した。

入社時から東京本社で鋼材の営業に携わり、1982年10月には大阪に転任。東京時代から大阪時代にかけて三菱自動車との取り引きに関わりが深く、本人いわく「取り扱う商材ではプレートの経験がないことと取引先も偏っていたのが私の経歴の特徴。若い人には、いろいろな素材、場所、お客さんを経験してもらうように人事にも気を配っている」と言う。2004年には大洋商事初の海外展開となる中国法人の総経理を勤め、2006年2月には東京に戻り、営業第一部長に就任。その後、2008年4月に取締役、2011年4月に常務を勤め、2013年4月に現職に就任した。

特殊鋼一筋で40年。その間を振り返って思うことは、「鉄は安いものというか、値上りしていない」と言う。北氏の記憶では、40年前はSC材が60円でクロモリが80円だったとか。その時代から少しは上がっているものの物価スライドからすれば据え置きに近く、「卵と同じで鉄は物価の優等生です」と笑う。鍛造製品の加工扱いが多かった大阪支社に赴任したときには、「鉄はこんなにも柔らかいものだったのか」と強く印象をもったという。

「切断してユーザーへの流通を担うだけの東京時代は鉄への印象はあくまでも硬いものでしたが、何社もの鍛造加工業者と付き合い、成分比

の変化でさまざまに特性を変える特殊鋼の面白さに初めて触れた」と振り返る。そうした経験からも、これからの会社と業界を担う若い社員にはいろいろな経験を積ませたいと考えている。

■自信をひとつでもつけること

顧客との信頼関係でつなぐ仕事

「何でもいいから、ひとつ自信をもてることを見つけてほしい」というのが社員教育での北氏のポリシーだ。

かつて北氏が三菱自動車川崎製作所(現三菱ふそうトラック・バス)の鍛造ラインを担当していたときに、材料の納入が間に合わないことがあったものの、先方が鍛造計画を1ヶ月分変更してくれて対応してくれたことがあったという。「日ごろから、お客さんの都合には死にもものぐるいでやって信頼関係を築いてきた。お互いに困ったことがあれば、その絆で工夫をしよう。そんな関係を実感できて非常にうれしかった。何か自信もてる仕事をというの、そんな経験からきています」

■経営者だけでなく社員レベルまで

懇親が広がる協会メリットを実感

全特協の人材育成事業も、社員にひとつの自信を与える役割を果たしていると捉えている。特殊鋼販売技士は全社員に必須の受講を課しており、何年かかっても構わないので全

員が1級まで取得しているようにしている。

「特殊鋼販売加工技士制度は業界標準の研修制度として貴重です。図面の読み方など非常に実務的でテキストも分かりやすい。私もかつては常にかたわらに置いて仕事をしていました。いまでも若い社員には、回し読みではなく自分で使うように、足りなければ買い足せばいいと声かけしています」と大いに活用できる内容だと考えている。

野球やボウリングなどのスポーツ大会も、多くの社員が楽しめてコストパフォーマンスが高いと捉えている。「経営者だけではなく各社の懇親が深まることはいいことです。社員同士が仲良くなって別途、野球の練習試合をやっているとも聞きますし、仕事の話も膨らむようです。会社の中だけで閉じているのではなく業界で広がりがあることが協会のメリットです」

「思いつきではあるが」と前置きしながら北氏は、今後は海外に展開している各社の出先や現地法人などの情報交換や課題解決のために海外支部とまではいかなくても、各国ごとのグループワーキングなどがあってもよいのではないかと提案する。「法律や商慣行の違いなどで海外は苦勞している。現地の悩み事を持ち寄って情報交換に役立てることもあっていいのではないかと」

現在単身赴任なので最近の趣味は料理を作ることに凝っている。外食ばかりでは飽きるし栄養バランスも偏るといことで、北氏が作るのは「晩酌のつまみ基準」のストック可能な煮物などの惣菜。味噌に砂糖とみりん、刻んだ大葉と青唐辛子を混ぜ込んで火で炙ると、ご飯のお供にも豆腐やコンニャクの付け合わせにも最高な一品に。また、福島の実家の父君が農家なので「三五八漬け」の素を作っており、それを送ってもらって大根や白菜などの野菜も自宅で漬けており、これも晩酌のアテに最高とか。「料理は時間もつぶせて飲み食いの楽しみになる。物理的にも精神的にも豊かになりますね」

新・理事訪問

櫻井鋼鐵株式会社
代表取締役社長 久木田至

次世代継承を意識しながら 人材獲得や会員利益向上を意識した活動を



■ソフト面のメリットを充実させ

利益を感じられる協会活動を

2014年6月の理事就任以来、大阪支部では副支部長として大阪主導で立ち上げに関わってきた中国支部設立に福原支部長とともに尽力するなどしてきた久木田至理事。この間の活動を振り返りながら、今後の見通しやご自身の思いを聞いてみた。

今年6月の総会以降に内定している全特協の全国ブロック制導入による組織改編については、「個人的には協会自体を必ずしも大きくしなくてはいけないものとは思っていない。会員数が増えることはもちろん歓迎すべきことだが、それよりも会員への利益を増やしていきたい」と協会の方向性を描く。

久木田氏のいう会員への利益とは「ソフト面のメリット」ということで、たとえば、「この講習会に行ってきた」「あの工場見学会は有意義だった」「新しいスポーツイベントに従業員が参加して喜んで帰ってきたな」という利益を感じてもらえるような活動の活発化だ。

「では、具体的に何をするのかはだいたい決まってくるが」と久木田理事は前置きしながら、昨年、大阪支部で数回にわたって行われたビジネススクールの充実をあげる。

「大きな会社の方は同じようなテーマの繰り返しでもたくさんの社員を受講させられるが、小さな会社だとすぐに一巡してしまう。毎年参加しても新しい知識が身に付くようなプログラム体系も考えないといけない」と、ビジネススクールにも工夫の余地があると考えている。

■若い世代に関心を高めてもらう

特殊鋼の普及啓発、広報活動を

全特協の最重要事業である人材育成でも、さらに広く社会に特殊鋼を知ってもらうような取り組みができないかとも考えているという。久木田氏が考える特殊鋼啓発事業の目標は業界へのリクルートにつながるようなものだ。

「これから非常に人材不足の時代がきます。他の会員さんとも『人材が不足している、特殊鋼業界に人が入ってこないよね』という話が出ます」。そこで、全特協として特殊鋼を幅広く知ってもらうためのセミナー等の開催から若い人材へのリクルーティングにつなげられないかということだ。

「自動車が好きな人、自動車は何でできているのかに興味をもっている人はたくさんいます。しかし、今はそこから特殊鋼にたどり着かない」。そこで、自動車を構成する部品の材料を広報する。自動車の中身まで教えれば、自動車好きの観点が違ってくる。「自動車業界に入りたい学生さん、自動車を作りたい、売りたいという人、『自動車好きは集まれ!』ということですよ」

■特殊鋼の入口を示すことで

リクルーティングへもつなげる

特殊鋼専門流通加工業などといっても、一般には鉄工所のようなイメージをもたれがちだ。「文系系学生も金属科の学生も、特殊鋼はだれがどうやって売って、どこに流通しているのか知らない。特殊鋼普及啓発のために広報をして、我々の業界

を総合商社的な色合いでPRしていくことが必要なのではないか」と久木田理事は考えている。

今の時代はネットを含めたメディアも進んでいるので、ニュースも情報も精度の高いものがとりやすい。特殊鋼への入口を知らせること。その入口から自動車につながり、興味を示す人もいるはずだ。そのためには、流通だけでなくメーカーも一緒になって取り組んでもらいたいと考える。メーカーも人手不足は同じことで、特殊鋼を世間に知らしめることで業界の人材獲得に役立ち、協会会員のメリットにつながるという構想だ。

■次世代継承を意識した

これからの20年の活動

自身の役割については「業界への恩返しの時期と捉えている」と言う。

「福原支部長とはちょうど一回り違いで、その次世代を担うとともに、この業界に入ってから30年になる。これからの20年が私たちの次の世代に業界を引き継いでもらうための時期」

特殊鋼業界は今後20年先も、新興国の産業化による需要やロボット産業の進化やさまざまなインフラ整備などで残ることに確信はもっているという久木田理事。ただし、「ただし、日本のメーカーと流通が残っているかは分からない。それは、これからの20年にかかっているのではないですか。そのためにも魅力ある業界づくりに知恵を絞って恩返しの20年になるはずですよ」と久木田理事は思いも新たに語る。

[シリーズ連載] 第9回 辰巳屋興業株式会社 いま世界へ！各社が取り組む海外展開事例

国内の消費不振に加えて、輸入鋼材の調達が一般化するなど特殊鋼の国内需要が頭打ちとなる中、数年前の為替変動を契機に自動車部品を中心としたメーカー各社の海外生産シフトが加速した。そうした背景から、総合商社だけにとどまらず特殊鋼流通各社も規模の大小を問わず、海外に拠点を展開することが顕著になっている。海外展開にあたり留意点は何か。シリーズ第9回は、自動車部品を全世界に販売するとともにアセアン諸国を中心に鋼材の輸出入業務にも長い歴史をもつ辰巳屋興業の堀川取締役にお話をうかがってみた。



鋼材統括部 取締役部長
堀川 宣之氏

アセアン地域を中心にローカルで築き上げた販路 今後はインドネシア鍛造事業を足がかりに拡販を目指す

半世紀の歴史を有する鋼材輸出と インドネシア熱間鍛造事業を柱に

辰巳屋興業の海外向け事業のうち鋼材部門は、昭和30年代後半から国内販売と同様に丸棒等の条鋼をメインとした特殊鋼やステンレス材の輸出入業務を行っている。現在では台湾、中国等の東アジア地域に加え、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナムなどのアセアン地域からインド、パキスタンまでに日本材の輸出のほか、第三国間との三角貿易も行っている。主力となるのは15社ほどの取引先があるタイを中心としたアセアンで、海外の鋼材関係の取引先は約40社を数える。

また、2013年には台湾の会社と共同出資でインドネシアに熱間鍛造会社を設立。インドネシアは二輪車では世界有数の生産国であり、今後は四輪車の生産増加も期待されている。そんなインドネシア国内で部品供給のほか、日本も含めたアジア市場に熱間鍛造品を供給するため操業をはじめている。ここへは日本から材料供給もし、第三国への出荷も行うなど辰巳屋興業の海外展開の新機軸となっている。

現地ローラー作戦で開拓した ローカル企業メインの需要先

堀川取締役は1982年の入社で、入社後20数年間は鋼材輸出を担当してきた海外営業のベテランだ。

辰巳屋興業の輸出入業務の開始のころから現在の取引先にいたるまでは、現地のローカル企業を新規開拓しながら販路を築いてきたところに特徴があ

る。1990年代初めまでは東南アジアを中心とした地道な営業活動が中心で、既存客から口コミでさまざまな情報を得るほか、現地の鋼材問屋街をローラー作戦で回ったりもしたという。また、現地の英語の電話帳でSTEELというキーワードを洗い出し、問屋やユーザーと思われるようなところに目星を付けて電話をかけたり日本から手紙を送ったりもしたという。また、当時はJETROなどに行くと海外から「日本の鋼材や鉄鋼製品が買いたい」などの引合いが寄せられており、そうした情報を収集して資料を送ることもあった。

「100件送って1件返事があるかどうかの効率でした。ハズレもたくさんありましたが、そうして取り引きがはじまったお客さんがいまでも残っているケースもあります」と、堀川取締役は当時の営業スタイルを懐かしむ。

インドネシア鍛造事業を契機に 最終ユーザーへとつながる商売を

輸出入事業の難しさは、やはり為替変動に伴うコストの調整が第一番と堀川取締役は表情を曇らせる。

プラザ合意以降の円高の流れの中で、日本材の海外販売の主軸は高級鋼材にシフトしていったが、近年ではすでに輸出材としては終了したと思われていた炭素鋼などでも、日本製の品質を求めて復活してきた素材もあるという。

「かつては日本材だからというだけで高く売れましたが、いまはとてとても。当社はローカルと

の取り引きなので第三国との競合もあり、為替による影響は大きいです」と堀川取締役。

今後は、まずは海外対応できる人材を増やしていくことだという。「昨年、従来は海外部に自動車部品、鋼材と要員配置していたものを、鋼材部で国内外ともに扱うように組織改編しました。これからは国内外でも情報も共有化できるようにしたい」（堀川取締役）。また、日本国内では取り引きのない日系企業との付き合いもあるインドネシア鍛造工場も今後の海外事業の飛躍を図るものとして注力する。

「それら日系企業は他国でも展開しているのだから、その先への輸出や三国間貿易など商機は多いはずですよ」と言う堀川取締役の目指すビジネスの形は、卸売りや加工業などこれまでのビジネスパートナーだけにとどまらず、最終ユーザーも加えた「四位一体」の流通を実現すること。インドネシア鍛造事業を軸にアセアンから世界へとつながる海外鋼材事業の拡大をにらんでいる。



2014年12月、KDI（キングドム・インダストリアル・インドネシア）の株主総会での榎社長（左から4人目）、堀川取締役（同6人目）ほか台湾などからの出資者との記念写真

理事会・委員会報告

■運営委員会

○第11回運営委員会

日時：平成28年1月19日 15:30～17:00

於：グランドヒル市ヶ谷「翡翠の間」

- 内容：1. 平成28年度の事業方針と同年度の予算について
2. 協会創立20周年 寄付金及び広告費の募集結果について
3. 20周年記念事業及び定時総会の概要について
4. 支部報告、委員会報告(全国イベントの検討状況について)
5. その他(次回運営委員会、理事会の日程等)

■人材育成委員会

【特殊鋼販売加工技士検定試験委員会】

日時：平成28年2月10日 15:00～16:30 於：大阪・鉄鋼會館

- 内容：1. 平成27年度の加工技士講座実施状況について
2. 平成27年度特殊鋼販売加工技士「実務編」検定試験の問題選定について
3. 検定試験、採点及び可否判定などスケジュールについて

■調査研究委員会

○第11回調査研究委員会

日時：平成27年11月24日 15:00～17:00 於：安保ホール

- 内容：1. 統計調査のメール配信化について
2. 景況アンケートのメール配信化について
3. 第75回(7-9月)景況アンケート調査報告
4. 第76回(10-12月)景況アンケートの設問について
5. 第14回経営環境等に関するアンケートの設問について
6. 平成28年度事業計画案及び予算案の考え方について
7. 次回委員会日程について

■内外交流委員会

○第5回内外交流委員会

日時：平成27年12月1日 15:00～17:00 於：安保ホール

- 内容：1. 平成27年度事業実績及び収支実績見込みについて
2. 平成28年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
3. その他

■労働安全衛生法・安全データシート(SDS)説明会 (特殊鋼倶楽部、全国ステンレスコイルセンター工業会との共催)

日時：平成27年12月4日 13:00～15:00 於：鉄鋼會館

内容：講師 日本冶金工業株式会社グループ環境・知的財産部長
藤田 篤史氏

テーマ 「労働安全衛生法・安全データシート(SDS)」について

■経営効率化委員会

○第7回経営効率化委員会

日時：平成28年2月15日 15:00～17:00 於：大阪鉄鋼會館

- 内容：1. 今後の経営効率化事業について
2. 大阪支部の「ビジネススクール」の平成27年度実績及び平成28年度の開講計画の紹介について
3. 全国展開イベント「全特協全国ポウリング大会」の開催検討について
4. 平成28年度事業計画案及び予算案について

■広報委員会

○第9回広報委員会

日時：平成28年2月18日 15:00～17:00 於：鉄鋼會館

- 内容：1. 広報誌「すていーる58号」の記事校正確認等について
2. 広報誌「すていーる59号」の記事内容等について
3. 平成28年度事業計画案及び予算案について

■青年部会

○第8回青年部会正副部会長会議

日時：平成28年2月4日 15:30～17:00 於：大阪鉄鋼會館

- 内容：1. 青年部会の今後のスケジュール・内容について
2. 平成28年度事業計画案及び予算案について
3. はがねの日記念LINEスタンプ作成と内容について

支援チャイルドからお礼の手紙が届きました！

全特協では、社会貢献活動の一環として国際NGO「ワールド・ビジョン・ジャパン

(WBJ)」のチャイルド・スポンサーシップに参加しています。チャイルド・スポンサーシップとは、社会基盤や経済が不安定な国に住む子供たちを支援する国際的な里親制度です。支援するカンボジアの2人のチャイルドから手紙が届いておりますので、その内容をご紹介します。

■チェア・ピアちゃんからの手紙

わたしと家族のみんなは元気です。あなたの国で嵐や火山の噴火などの大きな災害があったと聞きました。この災害はあなたの住んでいるところで起こったのですか。災害のことを聞いて、わたしは悲しく思っています。

あなたとご家族のみなさまがしあわせでありますように、とわたしはお祈りしています。

■サムスレイバちゃんからの手紙

あなたが、私の地域の発展のために支援してくださるご親切と、そのためにお金を使ってくださることに感謝しています。今私の村では、ワールド・ビジョンを通じて健康や衛生に関する教育を受けています。

【お詫びと訂正】

すていーる57号の8頁特殊鋼販売技士3級合格者名簿に誤りがございました。関係各位にご迷惑をお掛けしたことをお詫びして、訂正させていただきます。

	誤	正
片岡 雄一	三利特殊鋼(株)	三利特殊鋼(株)
上原 麻葵	〃	三和特殊鋼(株)
小迫 慶蔵	〃	〃
中西 祐樹	〃	〃

事務局だより

1 創立20周年記念事業及び定時総会の開催について

今年は今特協創立20周年の記念すべき年にあたり、会員・賛助会員の皆様や業界関係の方々をお招きして以下内容の祝賀会を開催する予定です。改めてご案内いたしますので、皆様奮ってご参加くださいますようお願い致します。

- (1) 日程及び場所：平成28年6月6日(月)於：パレスホテル東京
- (2) 第4回定時総会(併催) 13:30～15:00の予定
- (3) 20周年記念講演会 15:30～17:00の予定
- (4) 記念祝賀会 17:30～19:00の予定
- (5) 20周年記念誌の発行

2 特殊鋼販売技士「入門編」及び「3級」の研修講座開講について

(1)「入門編」研修講座

毎年年度初めの時期に、特殊鋼販売技士研修制度のスタートとして「入門編」の研修講座を実施しております。

平成28年度も下記の支部にて開講を予定しておりますので、奮って受講下さるようお願い致します。

「入門編」の研修内容は、特殊鋼を学ぶために必要な金属(鉄・非鉄)の基礎知識で、受講資格は特殊鋼に関心のある者となっております。学歴・性別・年齢などは問いません。講座時間は6時間となっております、1日で修了します。

あらためて各支部事務局より開講のご案内を致しますので、受講される方は開講予定の各支部事務局へ申し込んでください。

支部名	開講日	会場
東京支部	平成28年4月26日(火)	東京・鉄鋼会館
大阪支部	平成28年4月14日(木)	TPK大阪本町カンファレンスセンター
名古屋支部	平成28年4月20日(水)	東桜会館

(2)「3級」研修講座

また、5月中旬～7月に掛け各支部に於いて「3級」講座を開講する予定です。

研修内容は特殊鋼の基礎知識で、構造用鋼、工具鋼、ステンレス鋼などを30時間の講座にて習得した後、全国一斉に検定試験を実施(7月6日)する認定制度になっております。

「3級」講座につきましても各支部より改めて開講のご案内をいたします。詳細につきましては各支部事務局にお問い合わせください。

3 4月1日は「はがねの日」記念としてLINE用スタンプをゼントクマンキャラで発売予定

青年部会では毎年「はがねの日」記念の普及活動としてマウスパッドやタオルなどの小物を作成し会員に配布してきました。

今年は、年々LINEの使用率が高まりつつあることからゼントクマンキャラクターにてLINEスタンプを発売することにしております。詳細が決定しましたら改めてご案内いたしますが多数ご利用くださるようお願い致します。

LINE登録イメージをご紹介します。

■メイン画像

LINEストアで表示される一覧用の表示用です



■トークルームタブ用画像

購入後、実際にスタンプを使う時に画面下に出てくる一覧表示用です。



編集後記

すてぃーる58号を発行いたします。今年の冬は暖冬でしたが、皆様に、今号が届くころは櫻が満開かもしれません。穏やかな春だといいいのですが、申年の今年は、初めから事件、事故が多く大変騒がしい出だしでした。円高、株安とアベノミクスの崩壊ともいわれています。特殊鋼需要も先行き不透明な状況ですが、夏以降おだやかな上昇気流にのれればと願っております。

さて、今号では各地で開催された新年賀詞交歓会の模様を中心に伝えております。今年は、全特協が20周年を迎えます。記念事業を行いますので是非皆様ご参加ください。これからの20年もお役にたてる全特協を目指します。

なにはともあれ、世界が平和でありますように。

LINEスタンプ買ってくださいね……

広報委員会委員長・広報誌発行責任者／久木田 至